

【例題】あなたにとって魅力ある人はどのような人か。理由を含め述べなさい。

【文例】

私にとって魅力ある人とは、好奇心をもって学び続けられる人である。高校時代に出会った2人の魅力ある人物に、この点が共通していたため、このように考えた。

私は中学生の頃、社会が苦手であった。どうしても、結局は丸暗記をする科目だという意識が拭えず、面白くないと感じていたためだ。しかし、高校1年生で出会った先生は、自身が調査や見学にいった際の写真をスライドに映しながら、興味深いエピソードを入れ込んだり、生徒に疑問点を出させ次々に解答したりしてくださった。歴史を学び続け、どのような疑問にも対応できる自信を有していたからこそその振る舞いだった。とても活き活きと授業される先生の姿には尊敬の念を抱いたし、興味を持って学習ができ、今では最も得意科目にすることができた。

はじめに

ナカ1

また、高校時代、私はハンドボール部に所属していた。1 学年上に同じポジションの先輩がいた。この先輩は、朝練などの自主練を欠かさず行うだけでなく、練習休みの日には、近くの大学や実業団のハンドボール部を見学しに行き、同じポジションの人の動き・練習方法などを盗んでは、自身のプレイスタイルを進化させていた。競技能力向上へ学び続ける姿勢は他者をも感化させ、高校2年生の後半からは推薦でキャプテンを務められていた。

ナカ 2

以上述べたように、学び続ける人は、その人自身が生き活きとした存在になるだけでなく、他者をも感化させる。大変に魅力的な人物となるのだ。私自身、公務員として様々な職務を遂行できるよう学び続け、魅力ある人物に成長していく決意である。

おわりに

## ② はじめに—予想される反論—再反論—おわりに

この方式は、**自身の意見に対して、反対者の意見を想定し、その反対意見に再反論することで、自分の意見が相応しいと説得するものである。**

受験自治体に絡んだ課題や、社会時事的な課題など、何らかの対策を講じる内容、あるいは政策などの取り組みをどう評価するかといった内容を書くときに有益である。

なお、最初の段落である「はじめに」と「おわりに」は①と同様に、自身の意見である。予想される反論の前には、「確かに」「もちろん」など、譲歩的な接続詞を伴う。そして、再反論のときには、「だが」「しかし」などの逆説が必要となる。